

3. つながりをつくる 巡回展示・大型映像配給

国内外の科学館・博物館などへの展示物の巡回や映像配給をおこない、科学コミュニケーション活動の普及活動に取り組み、今年度はのべ174万人以上の動員を記録しました。また、館内での科学コミュニケーション活動から得られた知見を活用し、以下の巡回ミニパッケージも開発しました。

■巡回展示（一部抜粋）

- ▶ 夢をかなえるためにできること ～障がい者スポーツの世界～
（中外製薬株式会社との協働により2014年度開発）
キッズプラザ大阪(大阪府)、JICA地球ひろば(東京都)
- ▶ 広がるいのち -深海から宇宙まで- (2014年度開発)
明石市立天文科学(兵庫県)、ひとつものづくり科学館(石川県)、長野市少年科学センター(長野県)等
- ▶ 2014年ノーベル賞 (2014年度開発)
広島市こども文化科学館(広島県)
- ▶ THE世界一展
北九州イノベーションギャラリー(福岡県)
- ▶ 世界の終わりのものがたり～もはや逃れられない73の問い
満照山 真敬寺(東京都)
- ▶ お化け屋敷で科学する！2 ～恐怖の実験～
マレーシア国立科学館(マレーシア)、長崎文化歴史博物館(長崎県)
- ▶ メディアラボ第11期「フカシギの数え方」
札幌市青少年科学館(北海道)
- ▶ 環境関連巡回展示物（低炭素社会と情報科学技術、環境テクノロジー）
新潟県立自然科学館(新潟県：巡回後常設化)、埼玉県総合教育センター(埼玉県)、広島市こども文化科学館(広島県)、もぐらんぴあ・まちなか水族館(岩手県)、バンドー神戸青少年科学館(兵庫県：巡回後常設化)



巡回展示「広がるいのち
-深海から宇宙まで-」



環境関連巡回展示物
「環境テクノロジー」

■大型映像配給

- ▶ ちきゅうをみつめて
武庫川女子大学(兵庫県)、筑波大学(茨城県)、三重大学(三重県)、彩の国理数科ネットワーク推進事業講演会(埼玉県)、沼津市民大学(静岡県)、「宇宙の日」記念 作文絵画コンテスト記念講演会(静岡県)等
- ▶ Young Alive! ～iPS細胞がひらく未来～
バイオテック2014(東京都)、Bio Japan 2014(神奈川県)、第29回日本医学会総会 2015 関西(兵庫県)等
- ▶ FURUSATO 宇宙からみた世界遺産
SCIENCE CENTRE MALOKA Cinema Dome Theatre(コロンビア)、シアターSPEC(大阪府)等



大型映像配給「ちきゅうをみつめて」
上映・講演会の様子

■ブース出展など

- ▶ 未来館PRブース
子ども霞ヶ関見学デー(東京都)、国際交流フェスティバル(東京都)、Summer Picnic TOK'2014(東京都)



子ども霞ヶ関見学デーの様子

3. つながりをつくる 国内科学館

全国の科学館179館が加盟する「全国科学館連携協議会」事務局の運営を通じて、科学館のネットワークを活用した効果的な情報発信に努めています。

■ パネル展の貸出

研究機関などの協力を得て「全国科学館連携協議会」加盟館を対象にパネル展の巡回調整と貸出を行いました。2014年度はのべ46施設へ展開し、のべ83万人以上の動員を記録しました。
 [協力機関] 独立行政法人 海洋研究開発機構、独立行政法人 宇宙航空研究開発機構、独立行政法人 科学技術振興機構、独立行政法人 国際協力機構、向井千秋記念子ども科学館



展示巡回 2014年ノーベル賞

■ 総会、ブロック会議の開催

各地域のネットワーク強化を目的として以下の会議を実施しました。

会議	開催日	会場	参加者
総会・幹事会 / 施設見学	2014年7月2日(水)	日本科学未来館	102人
北海道ブロック会議	2014年10月16日(木)、17日(金)	エーヴェランドホテル	11施設 13人
東北ブロック会議	2014年11月13日(木)、14日(金)	秋田市自然科学習館	35人
九州ブロック会議	2014年11月20日(木)、21日(金)	仙台市天文台	13人
関東・信越ブロック会議	2015年1月23日(月)	相模原市立博物館	28人
中国・四国ブロック会議	2015年2月19日(木)、20日(金)	防府市青少年科学館	16人
北信越ブロック会議	2015年2月25日(水)、26日(木)	福井県児童科学館	14人
近畿ブロック会議	2015年3月12日(木)	加古川総合文化センター	9人
東海ブロック会議	2015年3月26日(木)	名古屋科学館	9人

■ 加盟館職員を対象とした研修の実施

加盟館職員の能力、知見などの向上やコミュニケーション促進を目的として以下の研修を行いました。

▶ 第1回国内研修

研修テーマ：科学館・博物館の展示等改修の事例
 開催日：2014年11月16日(日)、17日(月)
 会場：長崎市科学館
 参加者：20館28人

▶ 第2回国内研修

研修テーマ：ユニークな実演ショー・実験教室の開発から実演まで
 開催日：2014年2月15日(日)、16日(月)
 会場：静岡科学館 る・く・る
 参加者：26館42人

▶ 海外研修

期間：2014年2月4日(水)～9日(月)
 会場：スペースセンターヒューストン(SEEC参加) (アメリカ・テキサス州)
 参加者：9館11人



海外研修
 (スペースセンターヒューストンでのSEEC参加の様子)

■ イベント協力

- ・ 東芝未来科学館オープンイベント (2014年5月3日(土))
- ・ こども☆ひかりプロジェクト
 「海の日 ミュージアムキッズ・フェア」(2014年5月3日(土)～6日(火))
 「ミュージアムキャラバンinむしてっくワールド」「田村っ子ゆめまつり2014」(2014年9月20日(土)、21日(日))
- ・ 静岡科学館 る・く・る「非専門家に伝える科学コミュニケーション」(2014年9月21日(日))等

3. つながりをつくる 国際連携 ①

国際的な科学館コミュニティとの連携活動として、国際会議での情報発信、海外科学館との人材交流などを行っています。

■ オーストラリア国立科学技術センター(クエスタコン)との2014サイエンスサーカスツアー ジャパン 科学ショーと巡回展示物からなるクエスタコンのサイエンスサーカスを、被災地支援を目的として東北4カ所を巡回しました。巡回先では平日は学校での科学ショー、週末は各科学館等で展示会と科学ショーを行いました。科学ショーはクエスタコン、各地域の科学館、日本科学未来館の科学コミュニケーターが協働で開発したものです。展示会では体験型展示30個を通し、数学、物理、音などを学ぶ機会を提供しました。

実施場所：日本科学未来館、宮城県南三陸町、岩手県盛岡市(盛岡市子ども科学館)、岩手県久慈市(もぐらんぴあ・まちなか水族館)、青森県三沢市(青森県立三沢航空科学館)

実施期間：2014年4月26日(土)～5月25日(日)

総動員数：15,152人

主催：クエスタコン、日本科学未来館

共催：南三陸町教育委員会、盛岡市子ども科学館、盛岡市教育委員会、久慈市文化会館アンバーホール、久慈市教育委員会、青森県立三沢航空科学館、三沢市教育委員会

後援：オーストラリア大使館

助成：オーストラリア外務貿易省 豪日交流基金

協力：サイティックディスカバーセンター

・オープニングセレモニー

クエスタコンが開館の際に日本政府や産業界から受けた支援への感謝を表すとともに、サイエンスサーカスの開催を記念してオープニングセレモニーとキックオフイベントを開催しました。オープニングセレモニーには、オーストラリア大使や文部科学副大臣など両国の代表者が出席しました。

日時：2014年4月24日(木) 18:30～20:30

会場：フジテレビ湾岸スタジオ 1階 多目的ホール

参加者：約90人

会場	学校訪問/展示会・ショー	参加人数(人)	
日本科学未来館(東京)	シンボルゾーン(展示会・ショーのみ)	13,280	
	南三陸町(宮城県)		
	町立志津川中学校	240	
	町立歌津中学校	120	
	町立志津川小、戸倉小	350	
	町立伊里前小、入谷小、名足小	140	
	ベイサイドアリーナ	160	
盛岡市(岩手県)	盛岡市立洪民小学校	163	
	盛岡市立大新小学校	400	
	盛岡市立仁王小学校	315	
	盛岡市立桜城小学校	400	
	盛岡市立本宮小学校	258	
	盛岡市立仙北小学校	500	
	盛岡市子ども科学館	3,853	
	久慈市(岩手県)		
	久慈市立久慈小学校	660	
	久慈市立長内小学校	270	
	久慈市立小久慈小学校	250	
	久慈市立久慈中学校	160	
	アンバーホール	899	
三沢市(青森県)	三沢市立木崎野小学校	95	
	三沢市立三沢小学校+三川目小学校	155	
	三沢市立古間木小学校	140	
	三沢市立上久保小学校	146	
	青森盲学校+若葉養護学校	98	
	三沢市立おおぞら小学校	126	
	三沢市立岡三沢小学校	117	
	三沢航空科学館	1,857	
	合計		15,152



志津川小学校での展示会



盛岡市子ども科学館での科学ショー

■ 広東科学センター(中国)との高校生交流プログラム

巨大地震対策を共通のテーマに、日中の高校生チームそれぞれが研究トピックスを選び、約半年間調査研究活動をおこない、TV会議で交流しました。

実施期間：2014年6月～11月(11月8日(土)に最終プレゼンテーションを実施)

参加者：両国高校生10人

■ サイエンスセンターシンガポールでのワークショップ

サイエンスセンターシンガポールで実施するイベント「World Water Day」において、持続可能な水利用を主な論点とし、シンガポールの若者や大人を対象としたディスカッション形式のイベントを共同開催しました。

実施日：2015年3月14日(土)

参加者：28人

■ 科学館国際会議への参加

▶ ASPAC(アジア太平洋地域科学館連盟)2014 発表数：4件

会期：2014年5月5日(月)～8日(木)

会場：Oil and Gas Discovery Center (ブルネイ・セリア)

聴講者：約190人(日本科学未来館からの参加は5人)

▶ ECSITE(欧州科学館会議)2014 発表数：4件

会期：2014年5月20日(火)～24日(土)

会場：Museon (オランダ・ハーグ)

聴講者：約954人(日本科学未来館からの参加は4人)



ASPAC(アジア太平洋地域科学館連盟)2014



ECSITE(欧州科学館会議世界科学館サミット)2014

(敬称略)

3. つながりをつくる 国際連携 ②

■「世界科学館サミット(Science Centre World Summit)2017」の開催にむけた活動

「世界科学館サミット(Science Centre World Summit)」は、世界各地域の科学館ネットワークの代表者である国際プログラム委員会が、科学と社会の関係について、グローバルな視点でアプローチするために開催するものです。

2017年に開催される第2回目の世界科学館サミットは、アジア・太平洋地域を代表して、日本での開催となります。(第1回目の開催は2014年にヨーロッパ地域を代表し、ベルギーで開催)

世界科学館サミットでは、世界中の科学館が未来社会にどのようなかたちで貢献できるかを具体的に話し合い、且つ戦略的に外部組織とも連携して活動に取り組むための場として3年に一度開催される国際会議であり、世界約50ヶ国より500名程度の参加が予定されています。

2017年のホスト館として、2014年度は国際プログラム委員会とともに、サミット全体のテーマとロゴを提案し、決定しました。テーマは「Connecting the World for a Sustainable Future」、地球上のさまざまな生命と自分との間にある「つながり」をキーワードに、人間活動と人類が直面している気候変動や生物多様性の現象などの課題との関係を見つめ直すという意味をこめています。また、サミットに対するアドバイザー機関として、各界代表者、有識者による国内組織委員会を設置しました。

世界科学館サミット2017

開催期間：2017年11月14日(火)～17日(金)

会場：日本科学未来館

対象：世界の科学館、政界、産業界、研究機関、教育界などの関係者および関係組織

規模：50ヶ国 500名以上(予定)

詳細情報：<http://scws2017.org/jp/>(日本語) <http://scws2017.org/>(英語)

<国内組織委員会>

委員長：遠山敦子(公益財団法人 パナソニック教育財団 理事長)

委員：安西祐一郎(日本学術振興会 理事長)

安藤忠雄(安藤忠雄建築研究所 代表)

大西隆(日本学術会議 会長)

喜多恒雄(日本経済新聞社 代表取締役会長)

榊原定征(日本経済団体連合会 会長)

白川英樹(筑波大学 名誉教授)

中村紘子(ピアニスト)

木田幸紀(NHK交響楽団 理事長)

三浦善司((株)リコー 代表取締役社長執行役員)

三宅一生((株)三宅デザイン事務所 代表取締役会長)

森佳子(森美術館 理事長)

山中伸弥(京都大学iPS細胞研究所 所長)

吉川弘之(国際科学技術財団 会長)



(敬称略)

3. つながりをつくる 学校・教育機関

科学コミュニケーションの普及を目的に、教育委員会との連携、学校団体へ提供するプログラムの開発・実施を行いました。

■教育委員会との連携

- ・日本科学未来館にて埼玉県高等学校初任者教員研修を実施（2014年10月29日(水)）
- ・東京ジュニア科学塾(東京都教育委員会)にて生徒が展示からギモンを発見・考察しポスター発表する企画に参画（2014年12月7日(日)～2015年2月1日(日)）
- ・山口サイエンスキャンプ（山口県教育委員会）にて対話型ワークショップを実施（2014年12月20日(土)）
- ・とちぎ子どもの未来創造大学（栃木県教育委員会）特別体験講座にて講演とワークショップを実施（2015年1月17日(土)）等



埼玉県高等学校初任者教員研修

■学校団体向け新規プログラムの開発・実施

- ・対話型ワークショップ エネルギー編
実施校：都立科学技術高等学校、東京成徳大学中学・高等学校、島根県内自然科学部の高校生、池田高等学校
参加者：188人
- ・大型映像「ちきゅうをみつめて」の上映と循環に関するレクチャー
実施校：沼津市民大学、徳島県立那賀高等学校
参加者：193人（このほか、監修者による講義での使用、宇宙の日記念イベントでの講演でも活用）



学校団体向けプログラム
「対話型ワークショップ」

■来館した学校団体向けプログラム

小学校4年生から高校生を対象に255件のプログラムを実施し、のべ8157人が参加しました。

▶新規開発プログラム

- ・ワークショップ
生物多様性
エネルギー
- ・ワークシート
ミッションにチャレンジ! 想像してみよう!
わたしたちが暮らす未来
Challenge to the limit 地球編/宇宙編



学校団体向けプログラム
「ワークシート」

▶継続実施中のプログラム

- ・30min.サイエンス
宇宙旅行から考える地球環境のこと、深海にふれてみる～水圧実験、電子顕微鏡でのぞいてみよう
～ミクロの世界、どうする? エネルギーの選択、iPS細胞がもたらす再生医療の可能性
- ・実験教室
DNAの抽出、放射線、超伝導
- ・シアター系プログラム
4D2U ～apacewalk

(敬称略)

3. つながりをつくる ボランティア・メンバーシップの活動

ボランティアとともにさまざまな科学コミュニケーション活動を展開するとともに、メンバーシップの活動を通して科学コミュニケーションの普及展開を行いました。

■ ボランティアの活動

展示フロアでの展示解説のほか、ボランティアのもつ高い専門性を活かしたイベントを行いました。

- ▶ ノーベルかがくショー 参加者：のべ6,825人（8テーマ、計397回）
- ▶ 展示フロアツアー「人類はなぜ宇宙を目指すのか」参加者：のべ3,940人（計590回）
- ▶ 実験屋台 参加者：のべ3,941人（環境コース2回、電磁気コース4回、ロボットコース2回）
- ▶ ボランティアイベント 参加者：のべ1,827人（計2回、15企画）
- ▶ サイエンストーク・フェスタ 参加者：520人（18企画）



展示フロアツアー
「人類はなぜ宇宙を目指すのか」



サイエンストーク・フェスタ

■ メンバーシップの活動

3つの実験教室の新規開発、通常実験教室の実施、モニター会、ワークショップ、研究施設の訪問などをのべ176回実施行い、のべ1,929人が参加しました。

▶ 新規実験教室

- ・ 太陽電池をつくって考えよう！未来のエネルギー
導電性高分子を合成し有機薄膜太陽電池をつくることで太陽電池の構造を理解するとともに、世界のエネルギー事情に対する理解を深め、将来どのようなエネルギーを使っていくべきかを考えます。
監修：白川英樹(筑波大学 名誉教授)、松尾豊(東京大学大学院 理学系研究科 特任教授)
- ・ ロボット頭脳系 ～ロボットの動かし方
ロボットを動かすためのプログラミングの体験を通して、順序立てて物事をとらえる力を伸ばしたり、ものづくりにおける試行錯誤の大切さを学びます。
監修：金井徳典(神奈川工科大学 創造工学部 教授)
- ・ iPS細胞から考える再生医療「観察編」、「分化誘導編」
「観察編」では、iPS細胞から作られた心筋細胞などの観察とiPS細胞の特徴を理解するための染色実験を行います。「分化誘導編」では、参加者自身がiPS細胞の培養実験の一部を体験したり、分化誘導にチャンネルジシ、理解を深めます。これらの実験を通して、再生医療とどのようにつきあうべきかを一緒に考えます。
監修：横林しほり(京都大学iPS細胞研究所[CiRA] 特定拠点助教)



新規実験教室（太陽電池）試行会

▶ 試行会・モニター（開催数：のべ12回、参加者：のべ167人）

一般公開前の実験教室の試行会、新規展示のモニター会などを実施しました。

▶ リアルラボ（研究施設等訪問）（開催数：計10回、参加者：のべ156人）

研究施設や大学などの研究現場を訪問し、研究者からのレクチャーや実験に取り組む「リアルラボ」を行いました。（訪問先：日立ハイテクノロジーズ、南極観測船「しらせ」、東京大学、東京藝術大学など）

▶ 半日科学コミュニケーター体験（開催数：計16回、参加者：のべ48人）

クラブMiraikan会員が科学コミュニケーターとして「インターネット物理モデル」の実演を行いました。

▶ ワークショップ（開催数：計58回、参加者：のべ665人）

サイエンティストトークの内容をより深く知るために、イベント実施前に講演する研究者とともにワークショップ「海を支える小さな生き物に会いに行こう@お台場」「芸術×科学？君だけの宇宙機を描こう！」などを実施しました。また、シリーズワークショップ「地球をキャンパスにしよう！」で、Geo-Cosmosを使ったプレゼンテーションに挑戦しました。



シリーズワークショップ
「地球をキャンパスにしよう！」

（敬称略）

3. つながりをつくる 研究者・技術者とのつながり

展示やイベントを通じて先端の科学技術に関する情報を社会へ発信することを目的として、現在活躍している研究者や技術者、研究コミュニティなどと積極的に連携しています。

■先端の科学技術に関する調査

新規展示や館内外のイベントなどを企画・開発、実施するにあたり、国内外の先端科学技術の動向を把握するために、252名の研究者・技術者へ調査やインタビューなどを行いました。

■共同研究・研究協力

- ▶世界的にも珍しい、科学館の中に研究施設が併設されているという特色を活かして、研究施設の研究者による科学コミュニケーション活動を積極的に展開しています。2014年度も研究施設に入居する研究プロジェクト「インタラクション理解プロジェクト」(研究代表者：坊農真弓(大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 助教))とともに、科学コミュニケーターのインタラクションを分析し「よりよいインタラクション」を明らかにする研究を行いました。

また、入居している11の研究プロジェクトと共に「Miraikanオープンラボ～研究者の“秘密基地”を探検しよう！～」と題して、普段入れないラボの中をツアーする「たんけんしよう！」と、研究内容を体験する「やってみよう！」を実施しました。

- ・Miraikanオープンラボ～研究者の“秘密基地”を探検しよう！～

日時：2014年8月22日(金)～24日(日)

研究棟ツアー「たんけんしよう！」 参加者：260人(計15回(10研究プロジェクトで実施))

ワークショップ「やってみよう！」 参加者：101人(計7回実施(4研究プロジェクトで実施))

- ▶メディアラボ第13期と連動し、占部千由氏(東京大学 生産技術研究所)が未来館をフィールドに公共施設でのインフルエンザなどの感染症の広がりをシミュレーションする実験を実施しました(1,017名参加)。その結果はwebサイトで公開され、またサイエンティスト・トークでも詳しくご紹介いただきました。

(数理モデル大実験webサイト <http://www.sat.t.u-tokyo.ac.jp/first/expmath/>)

- ▶住岡英信氏、港隆史氏(株式会社国際電気通信基礎技術研究所(ATR))がイベント「親子で体験！ハグビーといっしょに絵本読み聞かせ」で、「来館者の行動がハグビーの使用の有無でどのように変化するか」について調査を行いました。



Miraikanオープンラボ
研究棟ツアー「たんけんしよう！」



親子で体験！ハグビーといっしょに
絵本読み聞かせ

■学会などでの発表

- ▶国際フォーラム Museum 2015 TOKYO

内 容：UNI-CUB実証実験について研究発表

日 時：2015年1月15日(木)

場 所：明治大学駿河台校舎

参加者：176人

- ▶ERATO 湊離散構造処理系プロジェクト最終成果報告会

内 容：メディアラボ第13期「フカシギの数え方」について

日 時：2015年1月24日(土)

場 所：7階 未来館ホール

参加者：173人

(敬称略)

3. つながりをつくる メディアとのつながり

企画展やイベント、未来館のさまざまな活動のほか、先端科学技術のトピックなどについて情報発信するとともに、メディアとのタイアップを通じ新しい利用層への発信も行っています。

■メディア対応

新規常設展や企画展、ノーベル賞受賞関連の活動、ロケット打ち上げ中継イベント等の広報活動、外部メディアとのタイアップイベント、バラク・オバマ氏（アメリカ合衆国大統領）の来館（2014年4月24日(木)）、アンゲラ・メルケル氏（ドイツ連邦共和国首相）の来館（2015年3月9日(月)）などの影響により多くのメディアで取り上げられました。

- ▶メディア対応件数：11,510件
- ▶公告換算費累計：8,635,500,767円

■外部メディアとの連携

メディアとのタイアップイベントにより、媒体でのイベント告知、イベント期間中の番組展開など、集客だけではなく未来館の認知度向上につなげました。

▶日本経済新聞社

企画展「THE世界一展」の関連企画として「親子で学ぶ よのなかよくするヒトモノシクミ展」を2014年4月26日(土)～5月6日(日)に開催しました。

▶NHK

2013年に引き続き今年度もタイアップイベント「サイエンス・スタジアム 2014」を2014年10月18日(土)～19日(日)に開催し、科学番組の使用模型・セットの展示、次世代ハイビジョンテレビの上映、番組の公開収録(Eテレ「サイエンスZERO」、「すいせんサー」、BSプレミアム「コズミックフロントスペシャル」)、科学コミュニケーターの番組出演などを行いました。

NHKスペシャル「NEXT WORLD ～私たちの未来～」(5回シリーズ)では、日本科学未来館が企画協力し、1月3日の第1回放送にて、2045年をイメージしたライブショー <NEXT WORLD LIVE>を日本科学未来館から生中継しました。また、本番組と連動したテーマ展示を2015年1月2日(金)～2月1日(日)に行いました。

▶朝日学生新聞社

タイアップイベント「朝小 春祭り at 日本科学未来館」を2015年3月22日(日)に開催し、科学コミュニケーターによるサイエンストークなどを行いました。

▶外部出版社

「Newton」などへの寄稿や書籍の科学監修を行いました。



サイエンス・スタジアム 2014



朝小 春祭り at 日本科学未来館

3. つながりをつくる 産業界とのつながり

パートナーシップ制度において、企業・団体からの支援をいただくとともに、企画展への協賛・協力等、産業界と連携し、科学技術と社会とのコミュニケーションの活性化に向けた活動を行っています。

(企画展示の協賛などについては、「1. 科学を伝える 企画展」をご参照ください。)

参考：http://www.miraikan.jst.go.jp/aboutus/approach/partner.html

■ 株式会社リコーとの協働活動

オフィシャルパートナー(ゴールド賛助企業)である株式会社リコー主催の、大学生を主な対象としたビジネスアプリケーション開発の発想と技術を競うコンテスト「RICOH & Java™ Developer Challenge Plus」に共催として参加。科学コミュニケーターが、プログラミング経験がない学生も参加できるアイデアワークショップを企画しファシリテーションを行うとともに、プログラミングに触れる機会の少ない小学校低学年を対象とした親子向けワークショップ「親子で挑戦、プログラマー一年生！」を開発・実施。コンテストのオープン化や、科学コミュニケーション手法を用いたイノベーション創出に向けた取り組みに寄与しました。また、株式会社リコーが海老名駅西口地区に開設する「RICOH Future House」で提供する、実験教室の開発、運営アドバイス等を行い、日本科学未来館の科学コミュニケーション活動の社会実装に向けて協業しています。



「親子で挑戦、プログラマー一年生！」

▶ Ricoh&Java™Developer Challenge Plus

日時：2014年6月21日(土)、7月31日(木)、8月1日(金)、12月6日(土)、7日(日)
会場：日本科学未来館
主催：株式会社リコー
共催：日本科学未来館

■ バンクオブアメリカ・メリルリンチからの助成金を活用した知的障害者向け展示見学サポートアプリ「ウェルカム！ナビ」の開発

特別支援学校・学級に通う中学部・高等部(知的障害・軽度～中度)の学生団体向けに展示見学サポートツール「ウェルカム！ナビ」を開発しました。展示体験を促すだけでなく、感想の記録、記念シートを発行し利用者が持ち帰れるように工夫することで、「成功体験」「コミュニケーション活性化」「記憶の定着」の促進につなげました。

アドバイザー：坂井聡(香川大学 教育学部 教授)、杉野学(全国特別支援学校長会 会長、東京都立多摩桜の丘学園 校長)、須藤シンジ(NPO法人 ビューブルデザイン研究所 代表理事)
※所属・役職は当時

協力：ドロップレット・プロジェクト、全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会
詳細：http://www.miraikan.jst.go.jp/guide/sne/sne.html



展示体験サポートツール「ウェルカム！ナビ」



「だれでもアスリート」
障害者週間2014(加藤甫氏)
(主催：日本科学未来館、中外製薬株式会社)

■ その他企業協業イベント

ワークショップ、トークイベント、クラブMiraikan会員の施設見学(リアルラボ)など、多様なイベントを行いました。



クラブMiraikan会員向けイベント
「見極めろ！宇宙からの淡い光
—画像処理の体験から最先端へ」
(協力：株式会社リコー、リコーイメージング株式会社)

(敬称略)

3. つながりをつくる 立法府・行政府とのつながり

科学技術基本計画などの国の施策をどのように実現できるか、また蓄積した情報をどのように国の施策に反映できるか、立法府・行政府との関係を構築しながら、日々の業務を通して検討・活動しています。また、先端科学技術や科学コミュニケーションにおける日本の代表拠点として認知・評価されたことにより、海外のVIPが研究者とともに進める科学コミュニケーション活動の視察のために多く来館。(43ヶ国 1502人) 国内のみならず、世界へ向けた日本の先端科学技術に関する情報発信と社会に答える科学コミュニケーションの深化に寄与しました。2014年度は、主に次のような方々が来館されました。

▶ 国内 (計29件 一部抜粋)

- ・西川一誠 福井県 知事 [2014年7月10日(木)]
- ・山本一太 内閣府 特命担当大臣 [2014年7月14日(月)]
- ・西村康稔 内閣府 副大臣 [2014年7月16日(水)]
- ・山本ともひろ 文部科学省 大臣政務官 [2014年9月17日(水)]
- ・下村博文 文部科学省 大臣 [2014年9月20日(土)]
- ・中村紘子 ピアニスト [2014年12月17日(水)]

▶ 海外 (計99件 一部抜粋)

- ・バラク・オバマ アメリカ合衆国大統領 [2014年4月24日(木)]
- ・ハインツ・リーゼンフーバー ドイツ連邦議会議員、元連邦研究技術大臣
[2014年5月28日(水)]
- ・カルメン・ベラ・オルモ スペイン科学技術担当長官 [2014年9月16日(火)]
- ・ピチェット・ドゥロンカヴェロ タイ科学技術大臣 [2014年10月3日(金)]
- ・パク・ヨンア 韓国科学技術企画評価院理事長 [2015年1月29日(木)]
- ・ザンダーフー・エンフボルド モンゴル国国家大会議議長 [2015年2月26日(木)]
- ・ダン・シェヒトマン イスラエル工科大学 教授(2011年ノーベル化学賞受賞)
[2015年3月2日(月)]
- ・アンゲラ・メルケル ドイツ連邦共和国首相 [2015年3月9日(月)]
- ・マノハール・パリカル インド国防大臣 [2015年3月30日(月)]



下村博文文部科学大臣の視察



オバマ大統領が学生と交流する様子



メルケル首相の視察

(敬称略)